

## IV 大学院教育

### [概要]

国立歴史民俗博物館には、総合研究大学院大学日本歴史研究専攻が設置されている。総合研究大学院大学は、全国の大学共同利用機関を基盤機関とする大学院大学であり、日本歴史研究専攻は、その文化科学研究科に属する専攻の一つである。3年間の博士課程（後期）のみで、定員は3名である。

当専攻では、基盤機関の特性と利点である、最先端の多彩な共同研究が実施されている研究環境と、膨大な資料とすぐれた設備を有する博物館の機能を活用して教育が行われている。

当専攻の目的は、広義の日本歴史の分野に関して、広い視野および国際的な通用性を兼ね備え、特定の専門分野について資料に基づいた高度な研究を行える研究者および高い研究能力をもって社会に貢献できる人材を育成することである。そのために、広義の日本歴史およびその隣接分野の研究主題について強い関心を持ち、自主的で持続的な研究活動を通して、自立的な研究者として成長する意欲をもつ学生を求めている。またその研究成果が社会の具体的な場に生かされ、還元されるという意味で、社会人学生の入学も歓迎している。

授業は、資料から歴史像を構築するという基本理念に基づき、大きく「資料研究系」と「社会史研究系」に分けられ、原則として各教員が一つずつを担当している。

このほか、夏期には集中講義として「日本歴史研究の方法」を開催している。A = 資料研究、B = フィールド研究、C = 博物館研究の3つのコースがあり、「学術資料マネジメントコース」として、総研大の全学および学外にも開かれた教育の場となっている。なお、集中講義AとCは隔年の開講である。2019年度は、集中講義Bを11名（うち他専攻10名）、集中講義Cを2名（うち他専攻1名）が受講した。さらに歴博が推進している総合資料学と連動した集中講義Dを設定し、これについては18名（うち他大学生18名）が受講した。

博士論文の作成に当たっては、複数の指導教員が指導に当たるほか、全教員が担当する「基礎演習」を年3回開催して、進捗状況を報告させるとともに、プレゼンテーション能力の向上を図っている。また調査研究の場である博物館の現場においても、日常的に指導を行っている。

これまで集中講義Bの開講と並行して各地で開催してきた「大学院講演会」を、専攻の認知度をより高めることを目的に、昨年度より基盤機関である国立歴史民俗博物館で開催している。具体的には、専攻の修了生とその指導教員が講演・鼎談を行い、専攻で行われている先端的な研究と教育を紹介する場とした。今回は第二回目の試みであり、2019年6月8日に「ハワイの日系人と太平洋戦争～追放・排除と包摂～」と題した講演会を歴博講堂で開催し、修了生の秋山かおり氏と指導教員の原山浩介准教授が講演を行なった。講演会に引き続き大学院説明会を開催し、また2019年10月20日にも歴博において教員7名、在学生2名による大学院説明会を開催し、ホームページにも概要を掲載した。

2019年度は2名が入学した。2019年4月現在、専攻の在学生は12名であり、うち社会人学生は10名である。

日本歴史研究専攻 専攻長 山田康弘

## [2019年度日本歴史研究専攻科目一覽]

教育研究指導分野	授業科目	担当教員	教育研究指導分野	授業科目	担当教員		
資料研究系	歴史資料研究	古代資料研究	准教授 小倉 慈司	技術史・環境史	古代技術史	教授 藤尾 慎一郎	
		中世資料研究	准教授 田中 大喜		中世技術史	准教授 村木 二郎	
		近世資料研究	教授 横山 百合子		近世技術史	准教授 澤田 和人	
		近現代資料研究	教授 樋口 雄彦		生態環境史	教授 西谷 大	
		金石文・出土文字資料研究	教授 仁藤 敦史		民俗環境論	准教授 柴崎 茂光	
		考古資料研究	教授 林部 均		地域文化論	村落伝承論	教授 小池 淳一
		民俗誌研究	准教授 青木 隆浩			都市伝承論	准教授 川村 清志
		物質文化資料論	准教授 山田 慎也			信仰伝承論	教授 松尾 恒一
		民俗文化資料論	教授 関沢 まゆみ			映像記録論	准教授 内田 順子
	資料論・展示研究	画像資料論	教授 青山 宏夫	国際交流論	日欧物質文化交流論	教授 日高 薫	
		美術工芸資料論	教授 大久保 純一		日欧政治交渉論	准教授 福岡 万里子	
		歴史展示研究	准教授 原山 浩介		アジア政治交渉論	准教授 高田 貫太	
		分析調査論	教授 齊藤 努		アジア物質文化交流論	准教授 上野 祥史	
	分析・情報科学	年代資料学	教授 坂本 稔	基礎演習	I (1年生対象)		
		資料保存科学	准教授 小瀬戸 恵美		II (2年生対象)		
		歴史情報科学	教授 鈴木 卓治		I		
	社会史研究系	社会論	古代社会論	教授 山田 康弘	II		
			中世社会論	教授 小島 道裕	集中講義	A (資料調査法)	
近世社会論			教授 横山 百合子	B (地域研究の方法)			
近現代社会論			准教授 原山 浩介	C (博物館とは何だろう)			
				D (総合資料学)			

## [2019年度在籍院生研究課題一覽]

入学年度	氏名	研究課題
2013年度	永越 信吾	東国の中世後期社会の考古学的研究
	鈴木 昂太	神と人間の関係性の研究—神霊を操り創り出していく宗教者に注目して—
	山崎 会理	近世における幕藩領主の婚姻関係の歴史的意義について —武家の女性たちの「目に見える」婚姻関係の歴史的変化を中心に—
2015年度	今城 未知	古代東アジアにおける墳墓の変容とその比較研究
	近藤 玲	徳島の弥生時代の特徴について
2016年度	芳野 貴典	諷誦文の歴史民俗学的研究
2017年度	西原 彰一	沖縄近現代史における「なまえ」についての複数の方法による研究 オーラルヒストリーを一つの柱として
	森田 大介	室町期の地下官人の研究
2018年度	秦 文憲	戦後の日本社会の構造を明らかにする—サラリーマンを中心として—
	間瀬久美子	近世朝廷幕府の宗教編成と民衆
2019年度	牧野 由佳	梯子獅子の民俗学的研究
	前山 和喜	科学技術計算と大型計算機の利用 —HITAC5020を中心として—

## [特別共同利用研究員]

国立歴史民俗博物館では、大学の要請に応じ、当該大学の大学院学生で、文献史学、考古学、民俗学および自然科学を含む関連諸学に関する分野を専攻する者に対し、必要な研究指導を行っている。

### 修了者一覧

氏名	研究課題	受託研究系・指導教員	委託大学院及び指導教員
川田 大晶	近世武州三峰山の社会経済史的研究	研究部民俗研究系 教授 松尾 恒一	國學院大學大学院 文学研究科神道学専攻 教授 岡田 莊司
沼賀健一郎	赤城山日光山神戦伝説の形成過程に現れるムカデ退治譚の研究	研究部 民俗研究系 教授 小池 淳一	武蔵大学大学院 人文科学研究科日本文化専攻 教授 高橋 一樹
李 生智	葬送と墓制と死者祭祀をめぐる民俗研究	研究部 民俗研究系 教授 関沢 まゆみ	國學院大學大学院 文学研究科文学専攻 教授 小川 直之
磯部 美紀	現代日本における「仏式葬儀」—死者に関する記憶—への注目—	研究部 民俗研究系 准教授 山田 慎也	大谷大学大学院 文学研究科社会学専攻 教授 高井 康弘